

ヤマトフロテック株式会社

ビル防災設備 プラント防災設備 避難警報設備 各種消火器

本社 〒108-0071 東京都港区白金台5-17-2 TEL.03-3446-7151(代)・FAX.03-3446-7160
大阪事業所 〒537-0001 大阪市東成区深江北2-1-10 TEL.06-6976-0701(代)・FAX.06-6976-0802
名古屋支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-1-22 KT葵ビル3F TEL.052-856-0701・FAX.052-856-0699
札幌支店 〒065-0027 札幌市東区北27条東19丁目1-1 TEL.011-780-1700・FAX.011-780-1701
仙台支店 〒984-0012 仙台市若林区六丁の目中町6-1 TEL.022-287-9531・FAX.022-287-9534
さいたま支店 〒331-0812 さいたま市北区宮原町1-68 TEL.048-652-1345・FAX.048-652-1321
横浜支店 〒241-0031 横浜市旭区今宿西町426-1 TEL.045-954-4411・FAX.045-954-4422
静岡支店 〒422-8005 静岡市駿河区池田231-1 TEL.054-263-0119・FAX.054-262-7741
広島支店 〒733-0005 広島市西区三滝町7-4 TEL.082-237-4625・FAX.082-239-3859
四国支店 〒791-1126 松山市大橋町202 TEL.089-963-5850・FAX.089-963-5877
福岡支店 〒812-0893 福岡市博多区那珂5-7-12 TEL.092-411-4224・FAX.092-411-4229
大阪工場 〒587-0042 大阪府堺市美原区木材通2-2-38 TEL.072-361-5911・FAX.072-361-6370
東京工場 〒300-1312 茨城県稲敷郡河内町長竿道前1951 TEL.0297-84-4451・FAX.0297-84-4716
中央研究所 〒300-1312 茨城県稲敷郡河内町長竿道前1951 TEL.0297-84-4711・FAX.0297-84-4712
関東物流センター 〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3-6-35 TEL.046-226-8161・FAX.046-228-7880
リサイクルセンター 〒587-0042 大阪府堺市美原区木材通2-2-38 TEL.072-361-7518・FAX.072-361-7519

●この商品についてのお問い合わせは、ご購入の販売店または当社ナビダイヤルへ…

お客様相談窓口



0570-080-100 受付時間:平日9:00～17:00

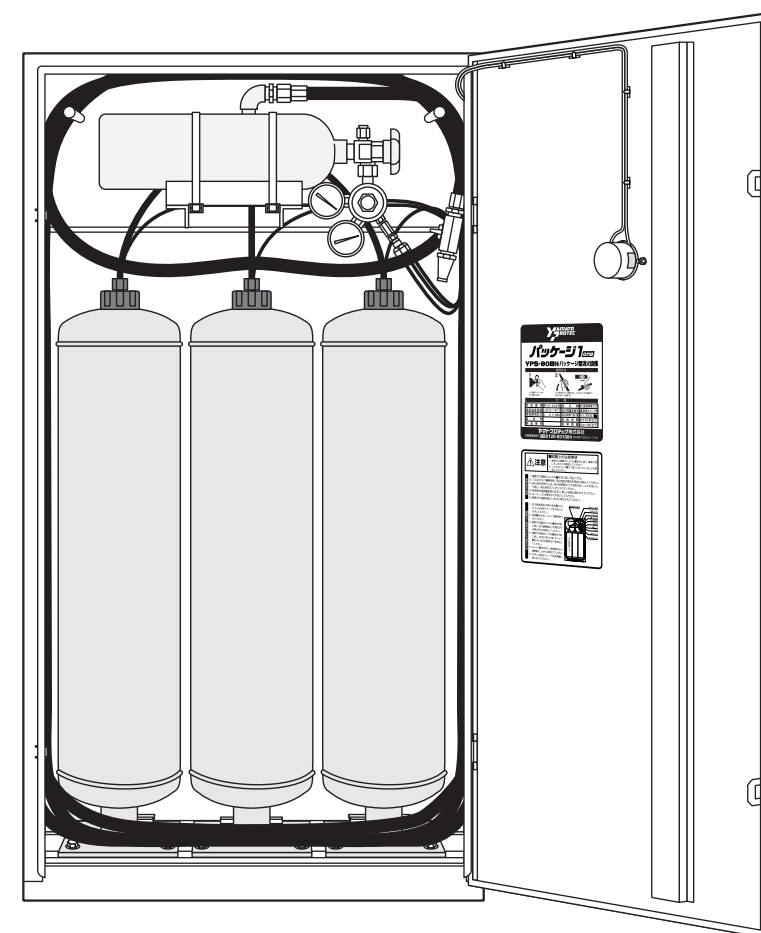


*説明書は必ず読んでください。
*いつでも読めるところに保管してください。

パッケージ型消火設備 取扱説明書

■対象器種■

YPS-80B



ヤマトフロテック株式会社

安全のため必ずお守りください。

安全に正しくお使いいただくため、
ご使用前に必ず「取扱説明書」をお読みください。
お読みになったあとは、必要に応じていつでも読めるように
大切に保管してください。

- この「取扱説明書」では、本設備を安全にお使いいただくために、必ずお守りいただくことを **⚠警告** **⚠注意** にわけてお知らせしています。
あなたや他の人々への危害や物的損害を未然に防止するために、必ずお守りください。

⚠ 警告

死亡または重傷を負う可能性がある状況を示す。

- 人に向かって絶対に放射しないでください。
 - 危害発生の恐れがあります。
- 消火薬剤貯蔵タンクにサビ・キズ・変形・キャップのゆるみのあるものは、絶対に使用しないでください。
 - タンクの破裂等により、人身事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

軽傷または中程度の障害、また物的損傷の発生のみが予測される状況を示す。

- 火災時・点検時以外は、絶対に操作しないでください。
- 火元に近すぎるとヤケドの恐れがあります。
 - 5m程度の距離をおいて消火してください。
 - 炎の大きさに惑わされず、火の根元をねらって消火してください。
 - 炎が小さくなるにつれて近づいてください。
- 法で定められた点検を定期的に行ってください。
- ノズルをしっかりとぎって、放射してください。
 - ノズルのコックをあけるとときに反動があります。
ノズルをしっかりとぎって、消火活動をしてください。

ホースの巻き方

格納箱の中にラック式に巻きます。

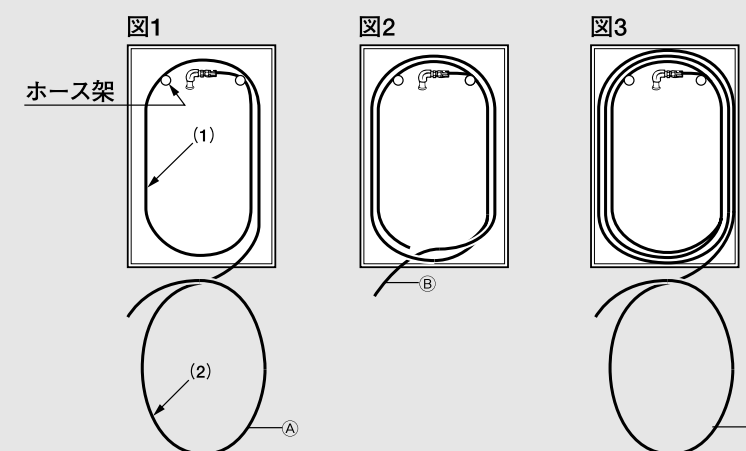
使用の際、ホースがねじれないように引き伸ばせる巻き方を必要とします。

基本として8の字形に巻きます。

※ホースをあらかじめ直線状にのばした後、巻いてください。

(8の字巻きの方法)

- [1]・最初の1巻きをホース架に架ける。(図1)
- [2]・ホースを輪にし (A) 部をホース架に架ける。(図1→図2)
- [3]・(B) 部をホース架に1巻きかけた後、ホースを輪にし (C) 部をホース架にかける。(図3)
- [4]・[3]を繰り返す。



火災の時すぐ使うために

⚠ 注 意

⚠ 試し放射(操作)はしないでください。

そのまま設置されますと「イザ!」というとき使用できません。

⚠ 放射後はすぐ消火薬剤を詰め替えてください。

一度放射されたら、消火薬剤の詰め替えとガス容器の交換が必要です。

*お求めになった販売店などの専門業者か、当社営業所に詰め替えを依頼してください。

⚠ 6ヵ月に1回以上の点検をしてください。

使用するときには100%の能力を発揮できるよう、また、長く効力を保持させるため、消防法施行規則第31条の4項に基づき「6ヵ月に1回以上の点検」を、消防設備士などの資格を有する人に依頼して行ってください。

⚠ ガス容器に衝撃を与えたり、ハンドルを開けたりしないでください。

ガス漏れの原因となり、使用できなくなります。

消火薬剤について

消火薬剤には、著しい毒性はありません。しかし大量に吸い込むと危険な場合がありますので、ご注意ください。

⚠ 注 意

⚠ 体にかかったときは水で洗い流してください。

消火薬剤が目に入ったり皮膚についたときは、すみやかに水道水で完全に洗い流してください。

衣類に付着したときも同様に水洗いしてください。なお、痛みが残るときは医師の診察を受けてください。

⚠ 放射後、または消火薬剤が付着したものはすぐに清掃してください。

放射後や、付着した消火薬剤をそのまま放置しておくとしみが残ったり金属類を腐食させることがあります。すみやかに十分な水で洗い流し、きれいにふき取ってください。

⚠ 人に向けて放射しないでください。

⚠ 消火薬剤を故意に口に入れないでください。

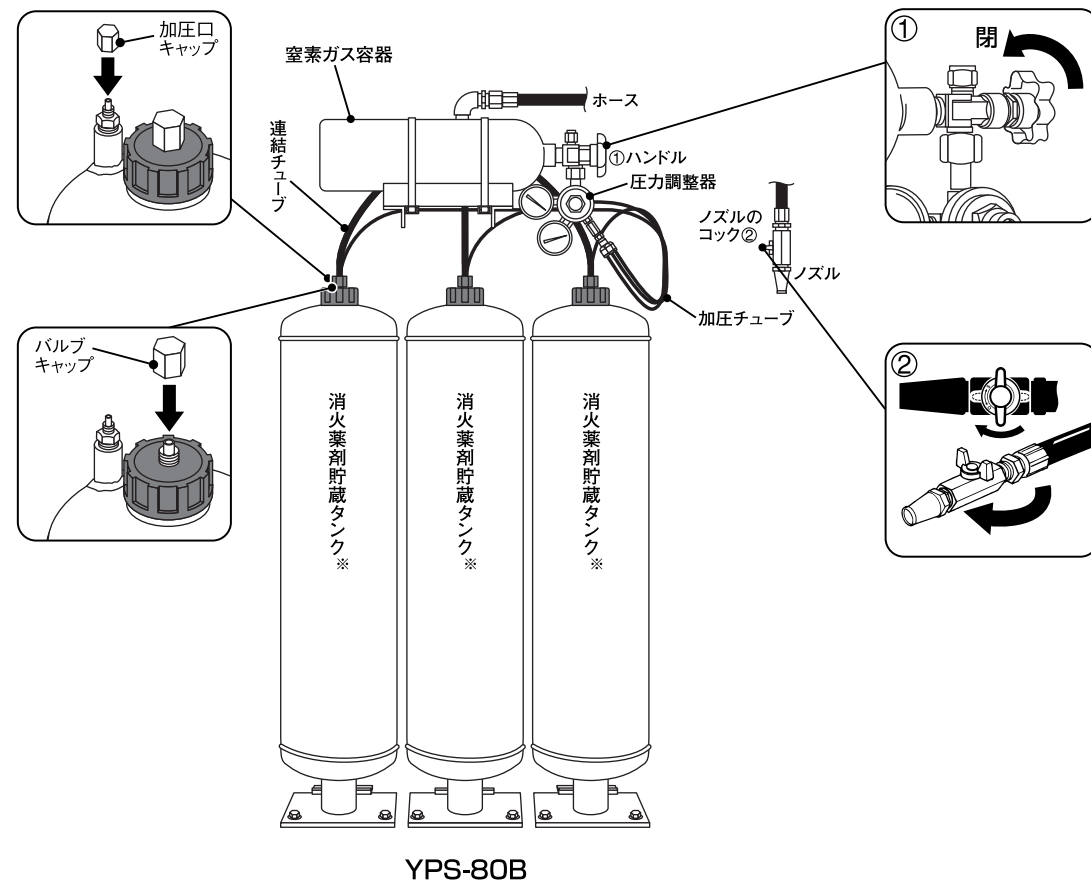
⚠ 消火薬剤がかかった食物は、絶対に食べないでください。

設置後の確認について

⚠ 注意

⚠ 設置時に次のことを確認してください。

- 1・窒素ガス容器のハンドル①が閉じていることを確認してください。
- 2・ノズルのコック②が「閉」になっていることを確認してください。



※設置後に格納箱から容器を取り外す場合は、消火薬剤がこぼれる恐れがありますので、必ず加圧チューブを取り外してから、連結チューブを取り外し、共にキャップを取り付けてください。
また、再び設置する際には、組立要領書にしたがって設置してください。
※消火薬剤貯蔵タンクは共通です。左・右・中央の区別はありません。

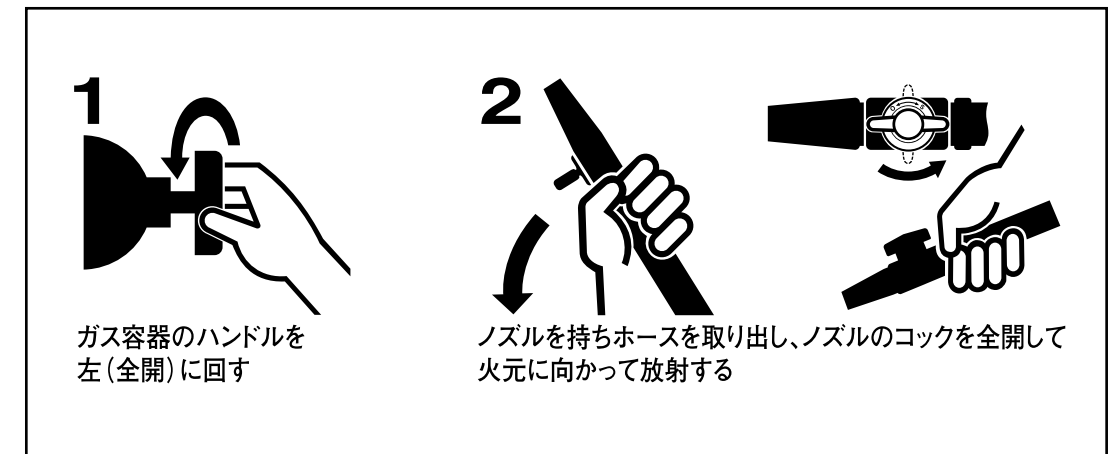
操作方法について

⚠ 注意

⚠ 銘板に書いてある使用方法に基づいて操作してください。

■使用方法

- [1] ガス容器のハンドル①を左(全開)に回す。
- [2] ノズルを持ちホースを取り出し、ノズルのコック②を全開して火元に向かって放射する。



⚠ 全量放射してください。

一度消火してもまた火がつく場合がありますので、消火薬剤は必ず全量放射してください。

使用後の処置について

⚠ 注 意

⚠ 消火後、必ずガスの元栓を締めてください。

ガスが関連した火災では、二次災害の恐れがあります。

⚠ 速やかに水でよく洗い流しきれいに拭き取ってください。

消火薬剤がかかった場所は、そのまま放置しておくとう器物を汚損する場合があります。

⚠ 再充てんが必要です。

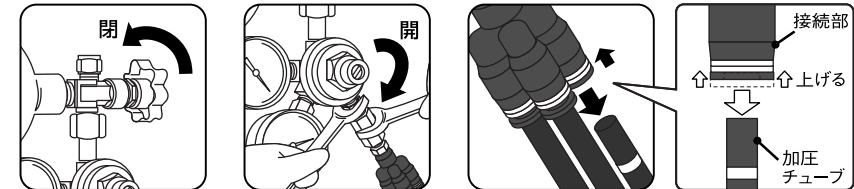
早急にお求めになった販売店か、当社営業所に詰め替えを依頼してください。

⚠ 再充てんを行う前の注意

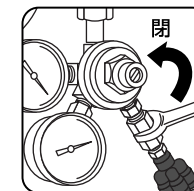
作図中のネジに関する表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。(以下同)

一度消火薬剤を放出した後は、消火薬剤の再充てんを行う前に、必ず次の処置を行ってください。
行わない場合は、次に使用したときに放射不能になることがあります。
再充てんは必ず有資格者によって行ってください。

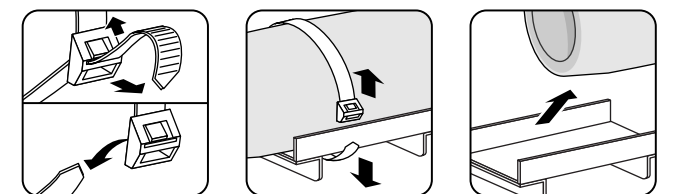
- 1・パッケージ型消火設備の周囲の汚れを防ぐため、養生シート等を使ってください。
- 2・窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、圧力調整器の接続部をゆるめ、ガスの残っていないことを確かめてから加圧チューブを外してください。



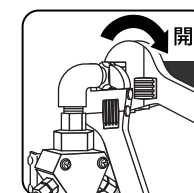
- 3・ゆるめた圧力調整器の接続部を締め付けてください。



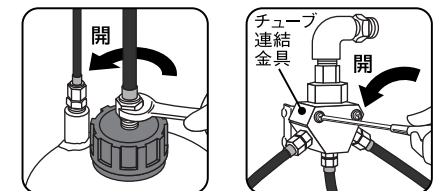
- 4・固定バンドのツメを上げながらバンドを引き抜き、取り外してください。
窒素ガス容器を格納箱から取り出してください。



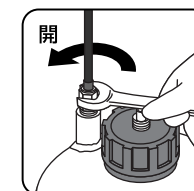
- 5・ホースを接続部から外し、格納箱から取り出してください。



- 6・連結チューブを左側・中央・右側消火薬剤貯蔵タンクの上から外した後、ビスをゆるめチューブ連結金具を取り外してください。

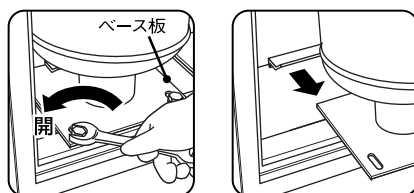


- 7・消火薬剤貯蔵タンクと加圧チューブを接続している袋ナットを外してください。

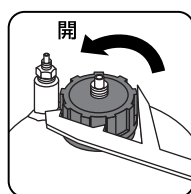


⚠再充てんを行う前の注意

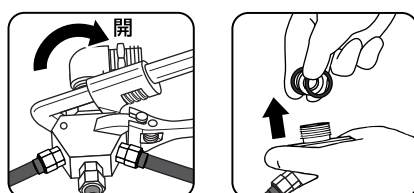
8・消火薬剤貯蔵タンクベース板のボルトを外し、消火薬剤貯蔵タンクを格納箱から取り出してください。



9・消火薬剤貯蔵タンク上部のバルブカバーを外してバルブを取り出し、タンク内の消火薬剤を残らず出してください。

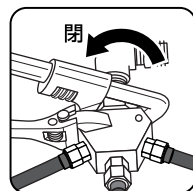
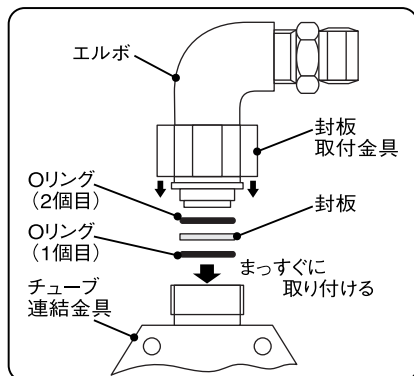
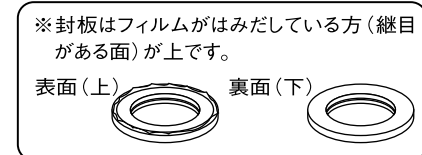
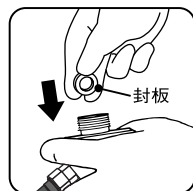
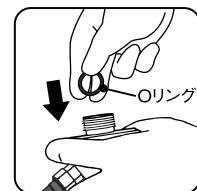


10・チューブ連結金具の封板取付金具をはずし、Oリング2個及び封板を取り出してください。(Oリング・封板、Oリングの順です)

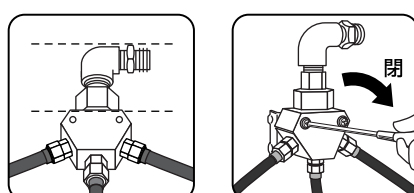


11・消火薬剤貯蔵タンク、バルブ、ホース、ノズル、チューブ連結金具の内面と外面を十分水洗いし、よく乾燥させてください。

12・チューブ連結金具にOリング(1個目)を入れてから、新しい封板を入れその上に2個目のOリングを入れてください。Oリングがはみ出さないように注意しながら、封板取付金具を取り付けてください。(※封板には表裏がございます。下記の図を参考に間違わないように取り付けてください。)



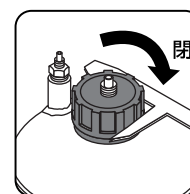
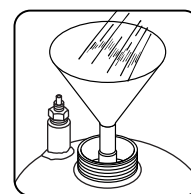
13・封板取付金具をチューブ連結金具にエルボと平行になるように締め付け、ビスでしっかり取り付けてください。



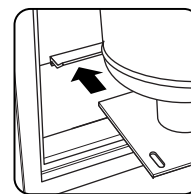
⚠再充てん

1・消火薬剤をこぼさないよう十分注意しながら、それぞれの容器に消火薬剤27L(13.5L×2缶)を充てんした後、バルブを取り付け、バルブカバーを締め付けてください。消火薬剤がこぼれたときは、ぬれ雑巾などで拭き取ってください。

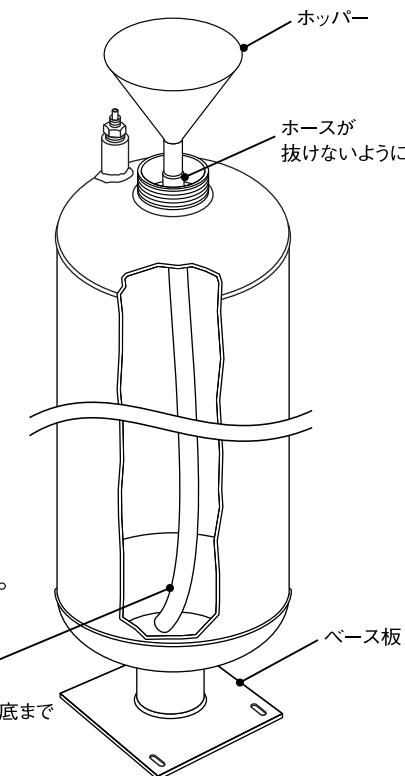
(※右記の充てん用ホッパーを使用すると便利です)



2・充てんした消火薬剤貯蔵タンクを格納箱内に乗せ、タンクのベース板を所定のツメにしっかりと押し込んでください。



ホースの先端が
消火薬剤貯蔵タンクの底まで
届くようにして下さい



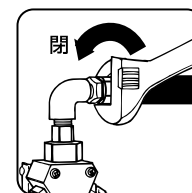
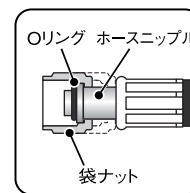
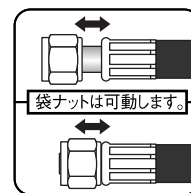
3・消火薬剤貯蔵タンクのベース板の穴に格納箱のボルト穴を合わせて、ボルトを完全に締め、ベース板を固定してください。(中央に消火薬剤貯蔵タンクを固定後、右側・左側タンク[順番は逆でも可]を固定してください。)

※消火薬剤がこぼれたときは、ぬれ雑巾などで拭き取ってください。



4・ホースニップルにOリングのついていないことを確認してください。ホース接続部に袋ナットを締め付け、手で緩まないことを確認してください。

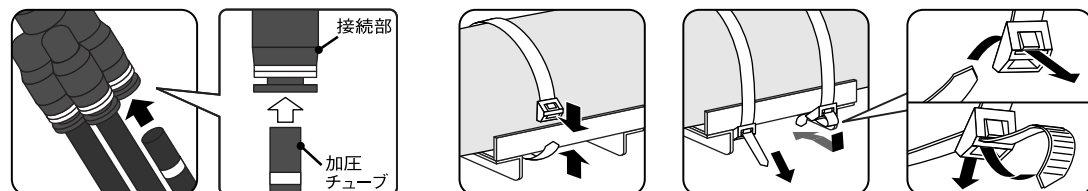
※Oリングがついていないと漏れの原因となりますので、必ず確認してください。



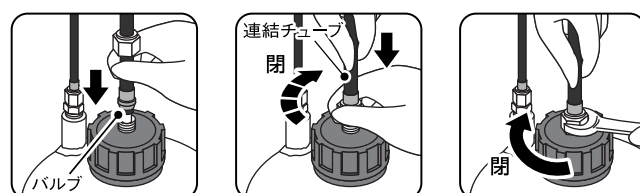
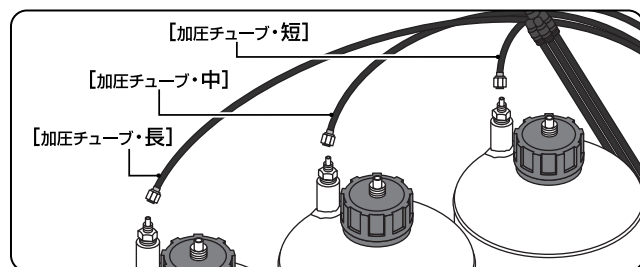
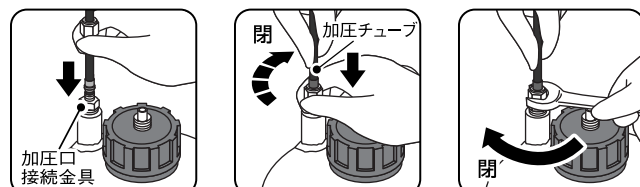
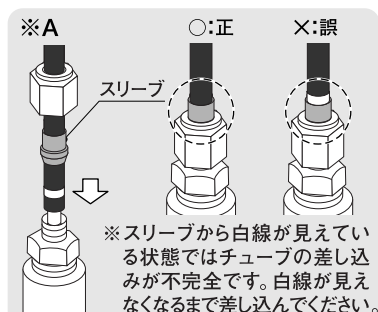
⚠️再充てん

5・次に、空になった窒素ガス容器から圧力調整器を外し、新しい窒素ガス容器に取り替えて格納箱に納め、加圧チューブを圧力調整器の接続部に差し込んでください。(その際、必ずチューブエンド【※1・P12参照】まで差し込んでください。)

窒素ガス容器を固定バンドで固定してください。(必ず容器下部で固定してください。)



6・先に加圧チューブを加圧口接続金具に、きっちりと差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、**加圧チューブ**を押しながら工具を使って締め付け、手で抜かないか確認してください。【※A図参照】(同じ手順で残り2本の加圧チューブも、加圧口接続金具に取り付けてください。)加圧チューブは【長・中・短】の3種類がありますので、間違わないように取り付けてください。

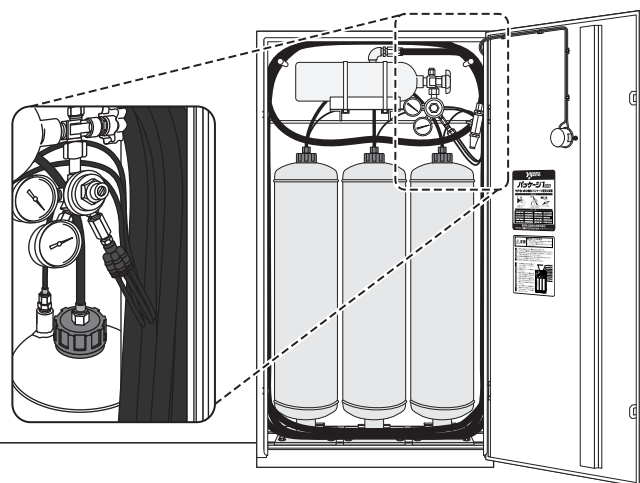


7・次に連結チューブをバルブに、きっちりと差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、**連結チューブ**を押しながら工具を使って締め付け、手で抜かないか確認してください。【※A図参照】(同じ手順で残り2本の連結チューブも、バルブ部分に取り付けてください。)

8・2ページ目に記載している「ホースの巻き方」を参考にホースを格納箱に収納してください。

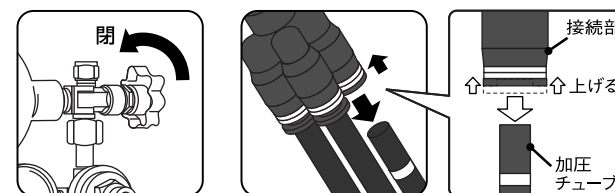
注意 加圧チューブはホースの後ろ側にセットしてください。

9・作業が終わったら、設置上の注意事項を確認してください。

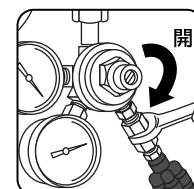


⚠️窒素ガス容器の圧力測定方法

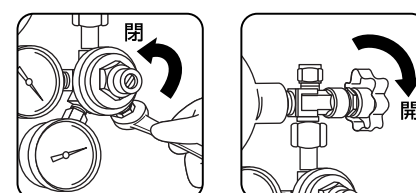
[1] 窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、加圧チューブを外してください。



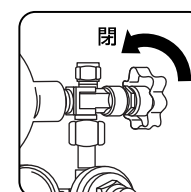
[2] 圧力調整器の接続部を外してください。



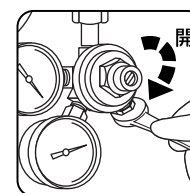
[3] 接続部分に、付属のキャップを取り付けた後、窒素ガス容器のハンドルを左「開」に回し、圧力調整器の一次側及び二次側の圧力を測定します。



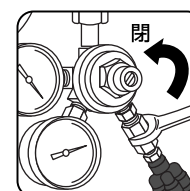
[4] ハンドルを右「閉」に回して閉じます。ハンドルを閉じた後に、二次側の圧力計の針が下がっていく場合には接続部等に漏れがあります。締め直しを行ってください。



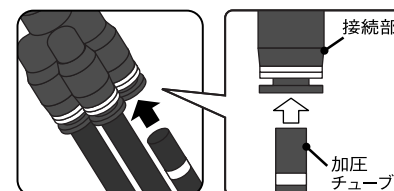
[5] キャップを少しゆるめて窒素の残ガスを放出します。



[6] 圧力調整器の一次側及び二次側の圧力が「0」になったことを確認後、キャップを外し圧力調整器の接続部を取り付けます。

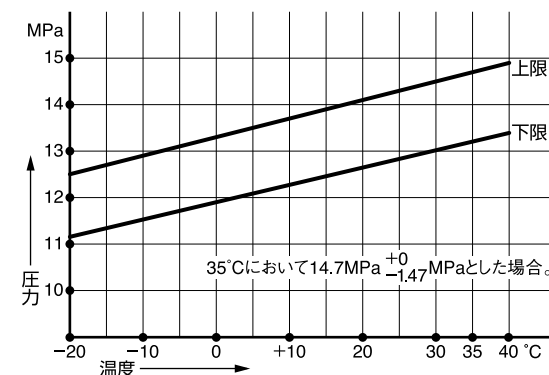


[7] 加圧チューブを圧力調整器の接続部に差し込んでください。(その際、必ずチューブエンド【※1 下記参照】まで差し込んでください。)

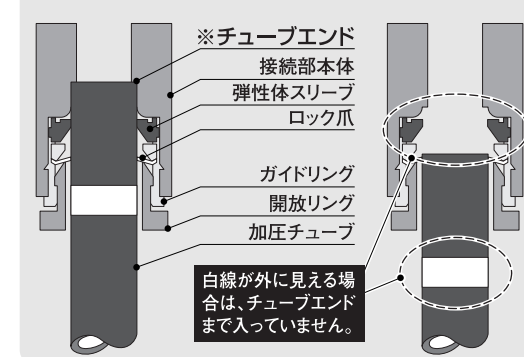


[8] 圧力測定の終了後は、各バルブの設置上の注意事項を確認してください。

●加圧用窒素ガス容器内圧力と温度の関係グラフ



※1 圧力調整器の接続部構造図



安全センター認定証紙

パッケージ型消火設備

銘板

連結チューブ

加圧用ガス容器

端子台

ホース

圧力調整器

ノズル

表示灯

加圧チューブ

格納箱

消火薬剤貯蔵タンク

ベース台

1450

商	品	名	パッケージ1 (one)
型	式	記 号	YPS-80B
認 定	型 式	番 号	PG-020号
種		別	パッケージ型消火設備Ⅰ型
消 火 薬 剤	種 別		第三種浸潤剤等入り水
消火薬剤鑑定型式番号			鑑剤第14～1号
加 圧 用	ガ ス 容 器		N ₂ ガス 5L
窒素ガス容器弁型式番号			よ-001-1号
調 整	圧 力		0.8 MPa (±0.05 MPa)
全 装 備	質 量		約208kg
消 火 薬 剤	容 (質) 量		81L (約100.7kg)
使 用	温 度 範 囲		－20℃～＋40℃
性 能	放 射 時 間		約165秒 (20℃)
	放 射 距 離		13m～15m (20℃)
	放 射 量		29L/min (20℃)
消火薬剤貯蔵タンク			内容積 85.5L (28.5L×3本)
ホ	ー	ス	φ21 (外径)×φ12.7 (内径)×26m
ノ	ズ	ル 開 閉 弁	ボールバルブ

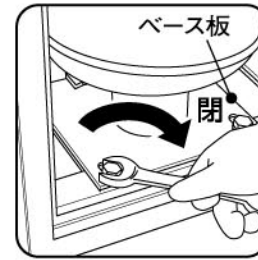
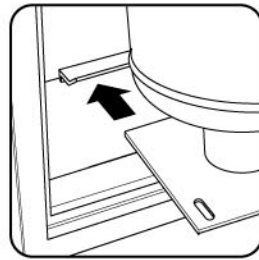
[illegible]

YPS-80B 組立チェックシート

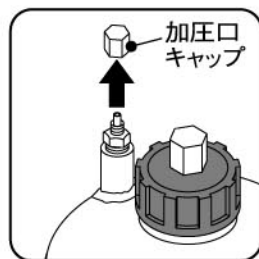
作図中のネジに関しての表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。

1・格納箱に消火薬剤貯蔵タンクを取り付ける。

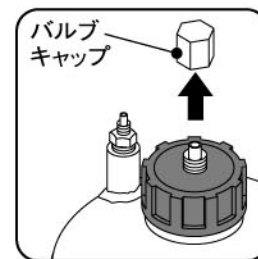
☐ ボルトは工具を使って確実に締め付けたか？



☐ 加圧口キャップを先に開けたか？

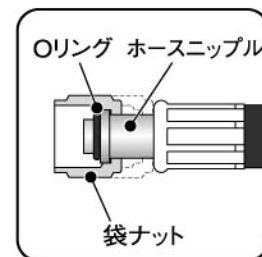
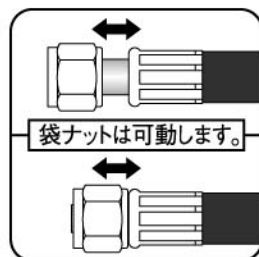


☐ 加圧口キャップの後にバルブキャップを開けたか？

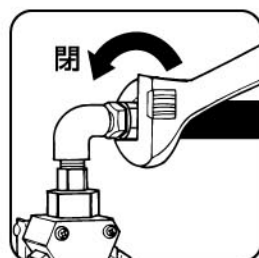


2・ホースを取り付ける。

☐ Oリングは右図の位置に確実に収まっているか？

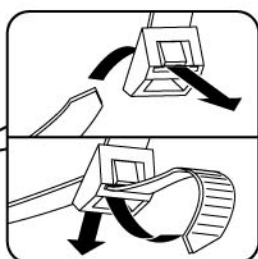
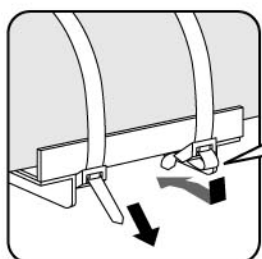
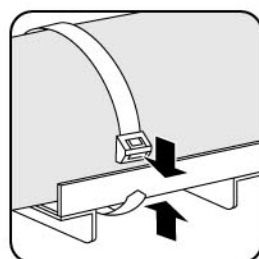


☐ 袋ナットは工具を使って確実に締め付けたか？



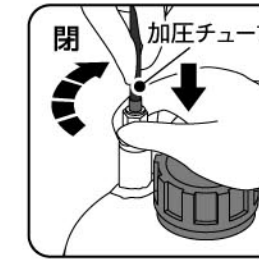
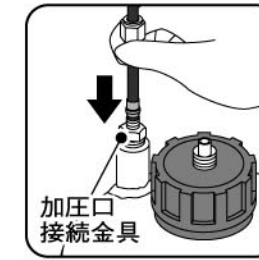
3・加圧用ガス容器を取り付ける。

☐ 固定バンドは容器の下部で固定したか？

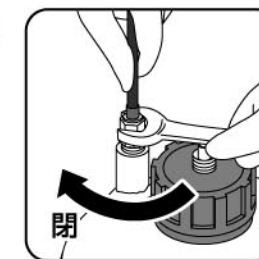


4・加圧チューブを取り付ける。

☐ 加圧チューブは白線が見えない位置まで差し込んだか？
[※A図参照]

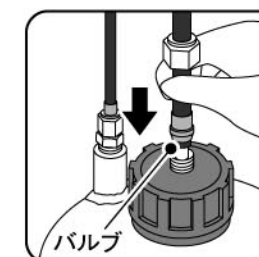


☐ 袋ナットは工具を使って確実に締め付けたか？

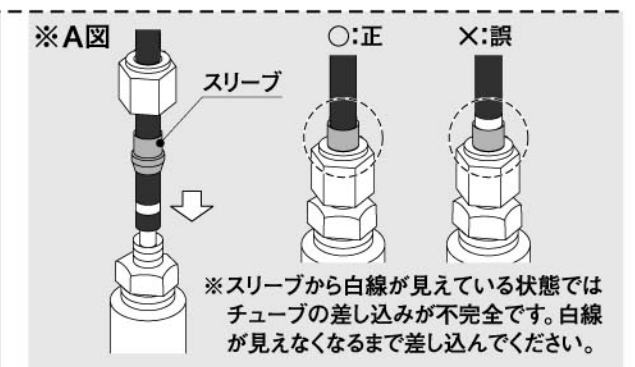
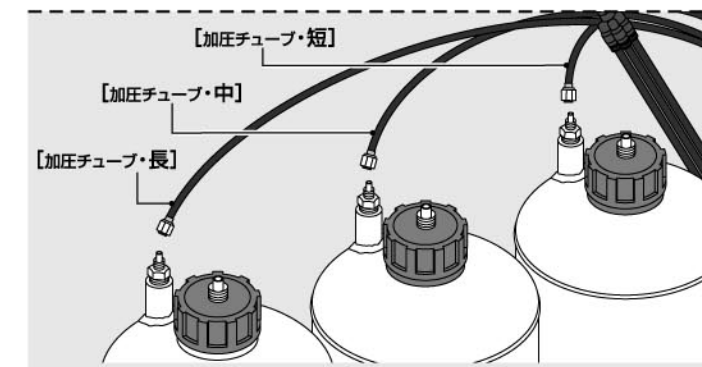
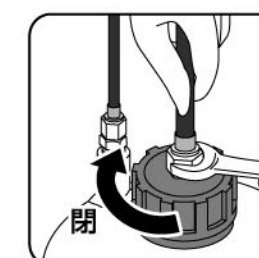
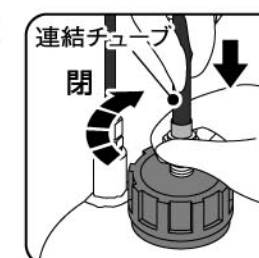


5・連結チューブを取り付ける。

☐ 連結チューブは白線が見えない位置まで差し込んだか？
[※A図参照]



☐ 袋ナットは工具を使って確実に締め付けたか？



YPS-80B 組立要領書

作図中のネジに関する表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。

■梱包形態(1台当たり:5ヶ口)

名 称	個 数	質 量
消火薬剤貯蔵タンク	3	約48kg×3
格納箱 露出型:ベース台付 予備封板	1	約52kg
取付部品セット	1	約20kg

※消火薬剤貯蔵タンクは共通です。左・右・中央の区別はありません。
※質量は梱包ケースを含みます。

■取付部品セット一覧

取 付 部 品 名 称	個 数
1 加圧用ガス容器 (圧力調整器・加圧チューブ付)	1
2 加圧用ガス容器固定バンド	2
3 ホース(ノズル、ノズル開閉弁付)	1
4 ボルト(M10)(平座金)	6
5 取扱説明書、組立要領書	各1
6 表示灯 セット品	1

端子台、ビス、配線コード、
配線止め、表示灯カバー、
表示灯ベース台、ビス、ナット、
表示灯用電球

■使用工具一覧

工 具 名 称	使 用 箇 所
⊕ドライバー	端子台用ビス
スパナ	サイズ12 加圧チューブ袋ナット
	サイズ17 M10タンク固定ボルト 連結チューブ袋ナット
ラチェット レンチ	サイズ17 M10タンク固定ボルト
モンキー レンチ	サイズ250 ホース袋ナット
	サイズ300 圧力調整器袋ナット

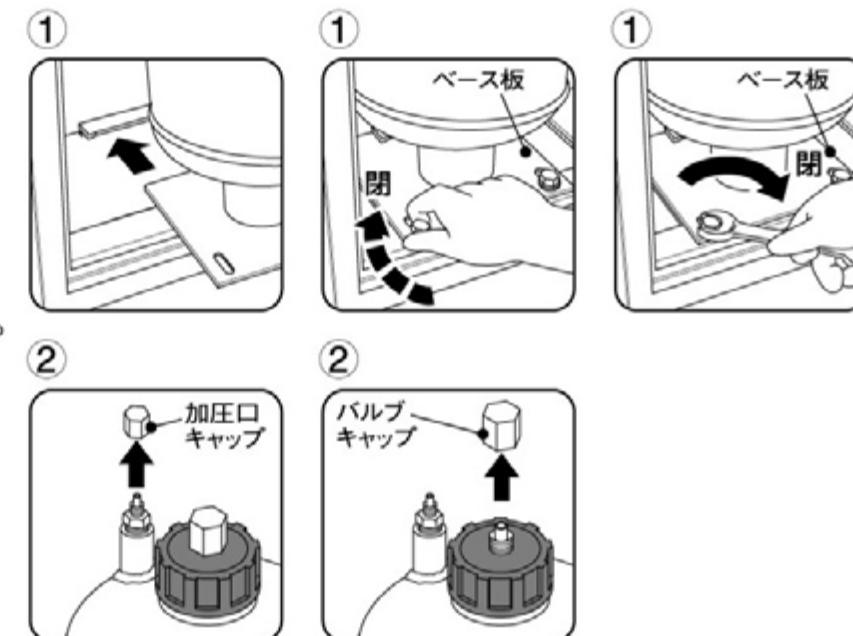
1 格納箱に消火薬剤貯蔵タンクを取り付ける。

■最初に中央へタンクを取り付けたあと、左右にタンクを取り付けてください。

- ①タンク完成品を格納箱タンク取付部と同じ高さの台等にのせ、ずらしながら格納箱に入れ、所定のツメにベース板を押し込んでください。ベース板の穴に格納箱のボルト穴を合わせて[M10ボルト]でボルトを完全に締め、ベース板を固定してください。残りのタンクも同様にして、3本のタンクをセットしてください。
- ②各タンクにセットしているキャップ2カ所のうち加圧口キャップを先に外し、次にバルブキャップを外してください。

※順番を逆にすると消火薬剤がこぼれ出る恐れがあります。

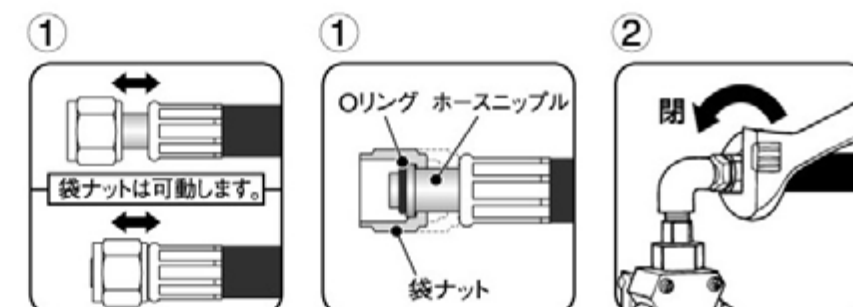
※薬剤がこぼれた場合は変色の恐れがありますので、洗浄し薬剤が残らないように処置してください。



2 ホースを取り付ける。

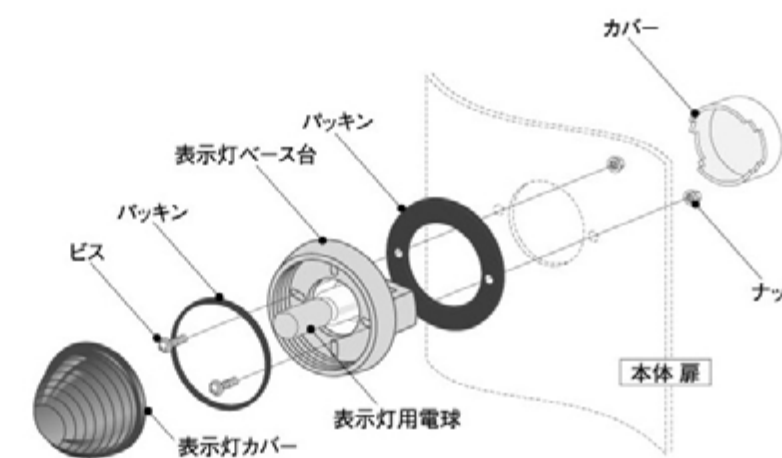
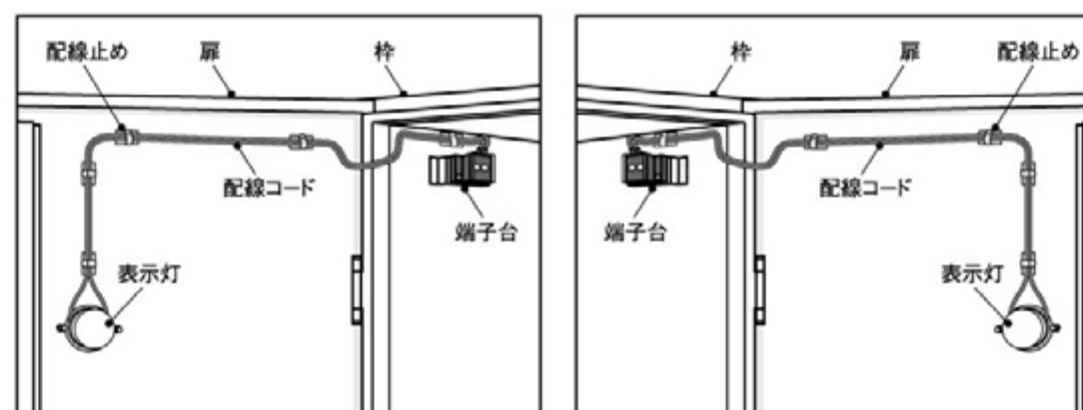
- ①ホースニップルにOリングのついていないことを確認してください。
- ②ホース接続部に袋ナットを締め付け、手で緩まないことを確認してください。

※Oリングがついていないと漏れの原因となりますので、必ず確認してください。



[露出型格納箱] 表示灯の取付

- 表示灯の配線は、右開き扉・左開き扉のどちらにも配線することができます。
- 配線止めは、部品ケースに5個梱包されています。扉の開閉に支障がない適当な位置に取り付けてください。



YPS-80B 組立要領書

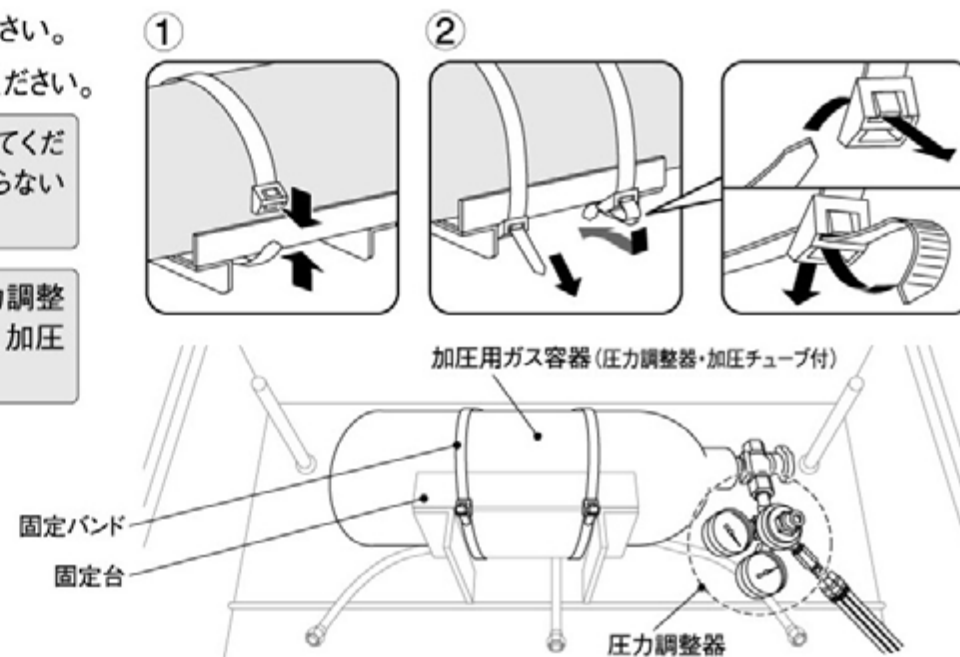
作図中のネジに関する表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。

3. 加圧用ガス容器を取り付ける。

- ① 加圧用ガス容器を固定台に乗せてください。
- ② 固定バンドで加圧用ガス容器を固定してください。

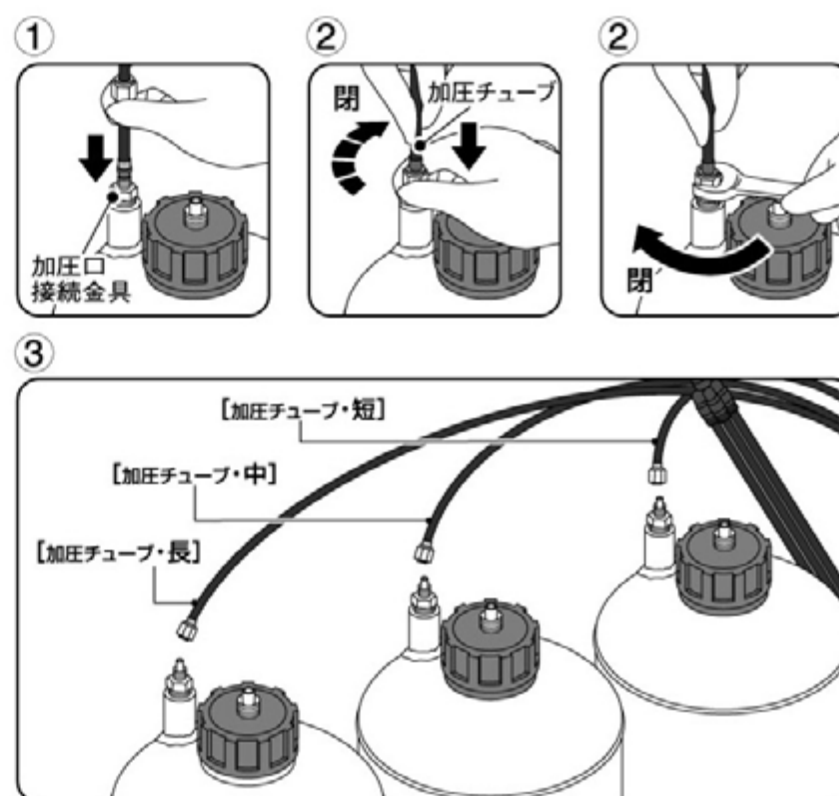
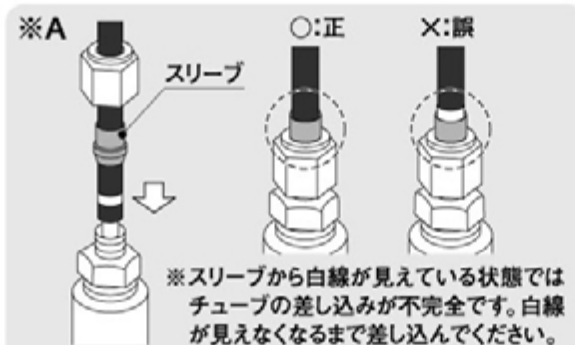
※固定バンドは、必ず容器下部で固定してください。容器前面で固定すると扉が閉まらない場合があります。

※加圧用ガス容器に接続されている圧力調整器は、右図のような位置になるように、加圧用ガス容器を固定してください。



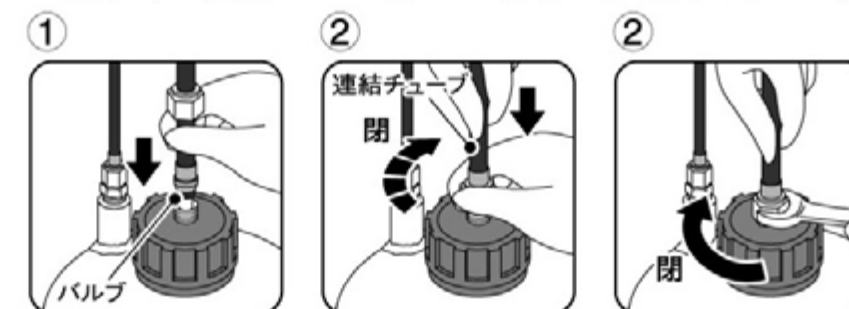
4. 加圧チューブを取り付ける。

- ① 先に加圧チューブを加圧口接続金具に、しっかりと差し込んでください。
- ② 袋ナットを締め付けるときは、**加圧チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜けないか確認してください。** [※A図参照] (同じ手順で残り2本の加圧チューブも、加圧口接続金具に取り付けてください。)
- ③ 加圧チューブは[長・中・短]の3種類がありますので、間違わないように取り付けてください。



5. 連結チューブを取り付ける。

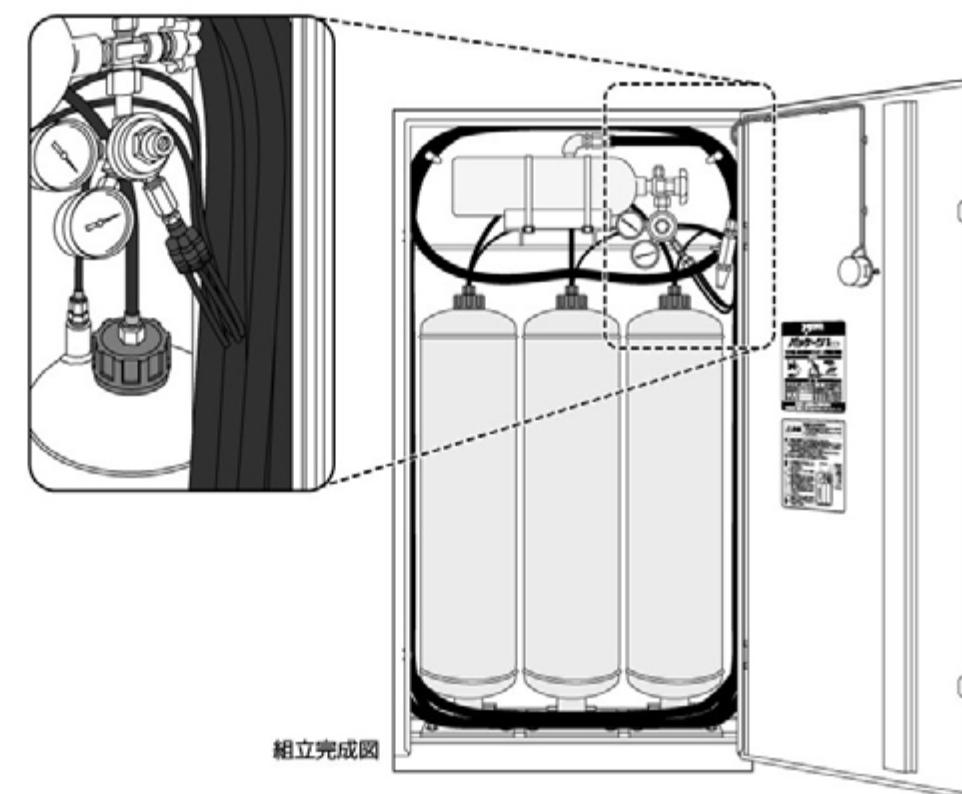
- ① 次に連結チューブをバルブに、しっかりと差し込んでください。
- ② 袋ナットを締め付けるときは、**連結チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜けないか確認してください。** [※A図参照] (同じ手順で残り2本の連結チューブも、バルブ部分に取り付けてください。)



6. ホースをセットする。

ホースの巻き方については、「取扱説明書」の2ページを参照してください。

△注意 加圧チューブはホースの後ろ側にセットしてください。

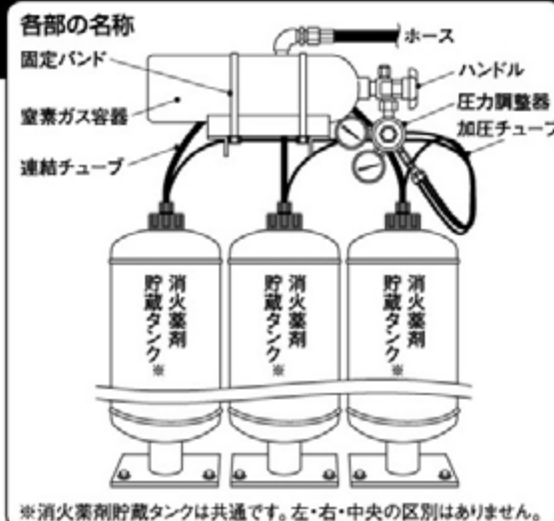
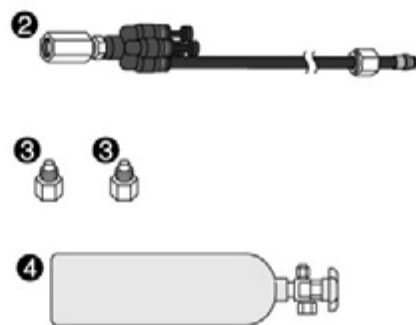


消防検査用取扱説明書[YPS-80B]

この作業は第一類、第二類または第三類の消防設備士が行ってください。

消防検査用セット品

名 称	個 数
① 消防検査用タンク(バルブ付)	1本
② 消防検査用加圧チューブ	1組
③ 連結チューブプラグ	2個
④ 窒素ガス容器	1本



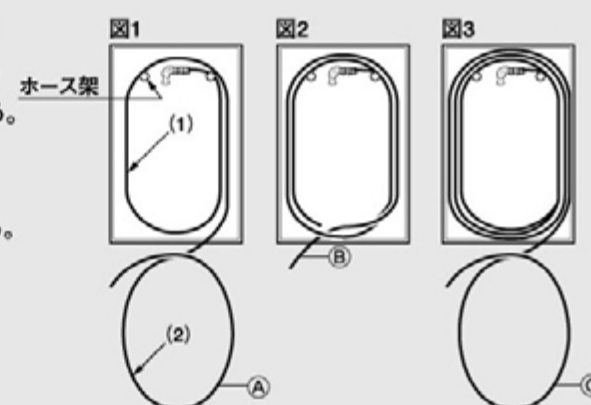
※消火薬剤貯蔵タンクは共通です。左・右・中央の区別はありません。

ホースの巻き方

格納箱の中にラック式に巻きます。使用の際、ホースがねじれないように引き伸ばせる巻き方を必要とします。基本として8の字形に巻きます。
※ホースをあらかじめ直線状にのばした後、巻いてください。

(8の字巻きの方法)

- 最初の1巻きをホース架に架ける。(図1)
- ホースを輪にし(A)部をホース架に架ける。(図1→図2)
- (B)部をホース架に1巻きかけた後、ホースを輪にし(C)部をホース架にかける。(図3)
- [3]を繰り返す。

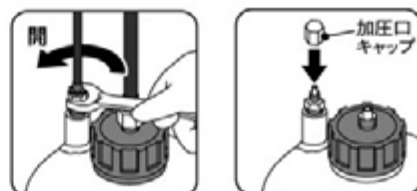


A・消火薬剤貯蔵タンクを消防検査用タンクに1本だけ入れ替えます。

- ① 消防検査用タンク上部のバルブカバーを外してバルブを取り出し、規定量の水(27L)を入れてください。充てん後、バルブを取り付け、バルブカバーを締め付けてください。



- 消火薬剤貯蔵タンクと加圧チューブを接続している袋ナットを3本すべて外し、加圧口接続金具に加圧口キャップを取り付けてください。(消火薬剤がこぼれる恐れがありますので、必ず加圧チューブを先に取り外してください)



- 左側・中央・右側消火薬剤貯蔵タンクの上部から連結チューブを3本すべて取り外し、バルブに、バルブキャップを取り付けてください。外した3本の連結チューブのうち2本に、③ 連結チューブプラグを取り付けてください。



- ① 消防検査用タンクと入れ替える消火薬剤貯蔵タンクベース板のボルトを外し、消火薬剤貯蔵タンクを格納箱から取り出してください。



- 水の入った① 消防検査用タンクを格納箱内に乗せ、ずらしながら格納箱に入れ、所定のツメにベース板を押し込んでください。ベース板の穴に格納箱のボルト穴を合わせて、ボルトを完全に締め、ベース板を固定してください。

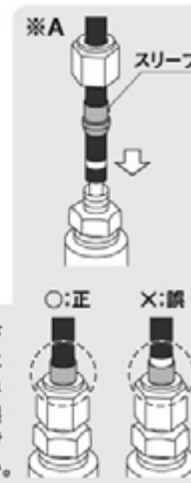


B・加圧チューブを取り替えます。

- 窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、圧力調整器の接続部をゆるめ、ガスの残っていないことを確かめてから加圧チューブを外してください。

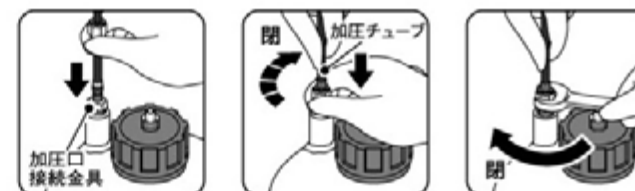


- ② 消防検査用加圧チューブ(1本だけのもの)を、圧力調整器の接続部に接続し、締め付けてください。



※スリーブから白線が見えている状態ではチューブの差し込みが不完全です。白線が見えなくなるまで差し込んでください。

- 先に② 消防検査用加圧チューブを① 消防検査用タンクの加圧口接続金具にきっちり差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、② 消防検査用加圧チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜けないか確認してください。[※A図参照]



- 次に連結チューブをバルブにきっちり差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、連結チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜けないか確認してください。[※A図参照]



C・放射します。

銘板に書いてある使用方法に基づいて操作してください。

- ガス容器のハンドルを左(全開)に回してください。
- ノズルを持ちホースを取り出し、ノズルのコックを全開して放射してください。



D・消防検査後の処置。

一度使用した後は、必ず次の処置を行ってください。行わない場合は、次に使用したときに放射不能になることがあります。

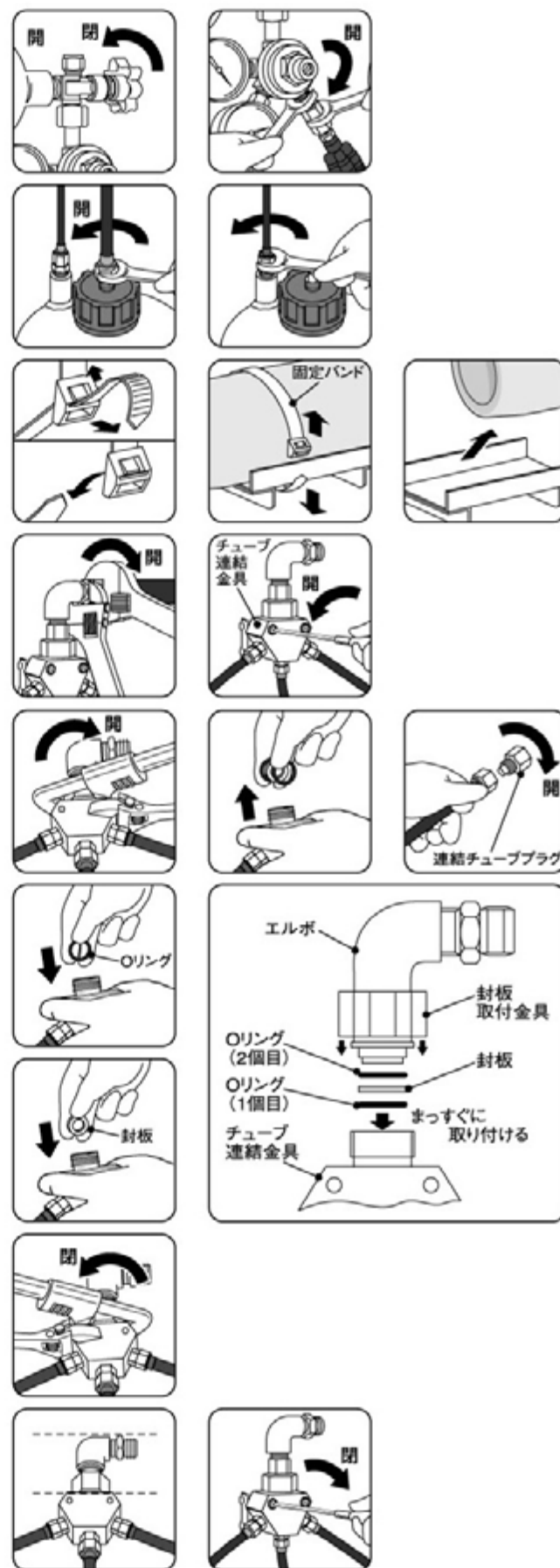
1. パッケージ型消火設備の周囲の汚れを防ぐため、養生シート等を使ってください。
2. 窒素ガス容器のハンドルを右に回して「閉」になっていることを確認し、圧力調整器の接続部をゆるめ、ガスの残っていないことを確かめてから②消防検査用加圧チューブを取り外してください。
3. 連結チューブを①消防検査用タンクの上から外した後、①消防検査用タンクと②消防検査用加圧チューブを接続している袋ナットを外してください。
4. 固定バンドのツメを上げながらバンドを引き抜き、取り外してください。窒素ガス容器を格納箱から取り出してください。
5. ホースを接続部から外し、格納箱から取り出してください。
6. ビスをゆるめチューブ連結金具を取り外してください。
7. ①消防検査用タンクをA-4の手順で格納箱から取り出してください。また、タンク上部のバルブカバーを外してバルブを取り出し、タンク内の水を残らず出してください。
8. チューブ連結金具の封板取付金具をはずし、Oリング2個及び封板を取り出してください。(Oリング、封板、Oリングの順です)。③連結チューブプラグ(2ヶ所)も取り外してください。
9. 使用した①消防検査用タンク、バルブ、ホース、ノズル、チューブ連結金具の内面と外面をエアブローで水分を取り除いてください。
10. チューブ連結金具にOリング(1個目)を入れてから、予備封板※を入れその上に2個目のOリングを入れてください。Oリングがはみ出さないように注意しながら、封板取付金具を取り付けてください。

※封板には表裏がございます。フィルムがはみだしている方(縦目がある面)が上です。下記の図を参考に間違わないように取り付けてください。

表面(上) 裏面(下)

※予備封板は格納箱に貼付しています(消防検査用セット品には含まれておりません)

11. 封板取付金具をチューブ連結金具にエルボと平行になるように締め付け、ビスでしっかり取り付けてください。



E・組立。

1. 消防検査前に取り外した消火薬剤貯蔵タンクをA-5の手順で格納箱に固定してください。

2. ホースニップルにOリングのついていることを確認してください。ホース接続部に袋ナットを締め付け、手で緩まないことを確認してください。
※Oリングがついていないと漏れの原因となりますので、必ず確認してください。

3. 次に、空になった窒素ガス容器から圧力調整器を外し、④新しい窒素ガス容器に取り替えて格納箱に納め、固定バンドで固定してください。

4. 加圧チューブ(3本のもの)を、圧力調整器の接続部に接続し、締め付けてください。

5. 先に加圧チューブを加圧口接続金具に、きっちりと差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、**加圧チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜かないか確認してください。[※A図参照]**(同じ手順で残り2本の加圧チューブも、加圧口接続金具に取り付けてください。)加圧チューブは「長・中・短」の3種類がありますので、間違わないように取り付けてください。

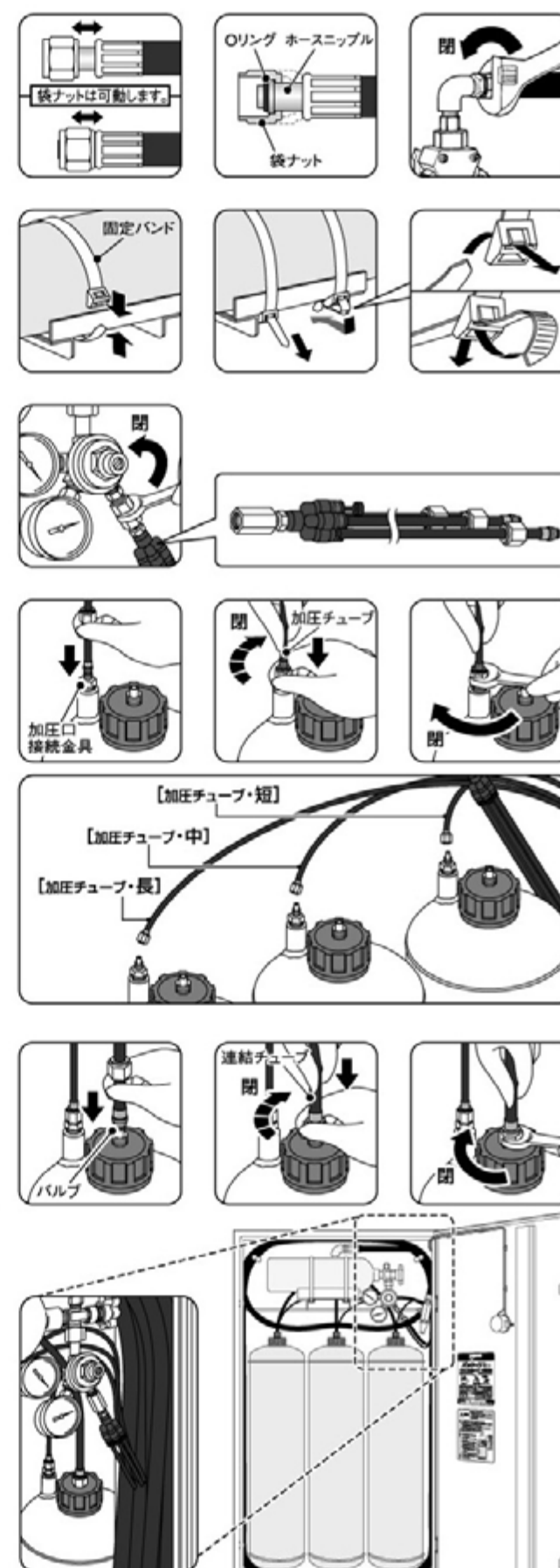


6. 次に連結チューブをバルブに、きっちりと差し込んでください。袋ナットを締め付けるときは、**連結チューブを押しながら工具を使って締め付け、手で抜かないか確認してください。[※A図参照]**(同じ手順で残り2本の連結チューブも、バルブ部分に取り付けてください。)

7. この取扱説明書表面に記載している「ホースの巻き方」を参考にホースを格納箱に収納してください。

⚠ 注意 加圧チューブはホースの後ろ側にセットしてください。

8. 作業が終わったら、銘板の設置上の注意事項を確認してください。

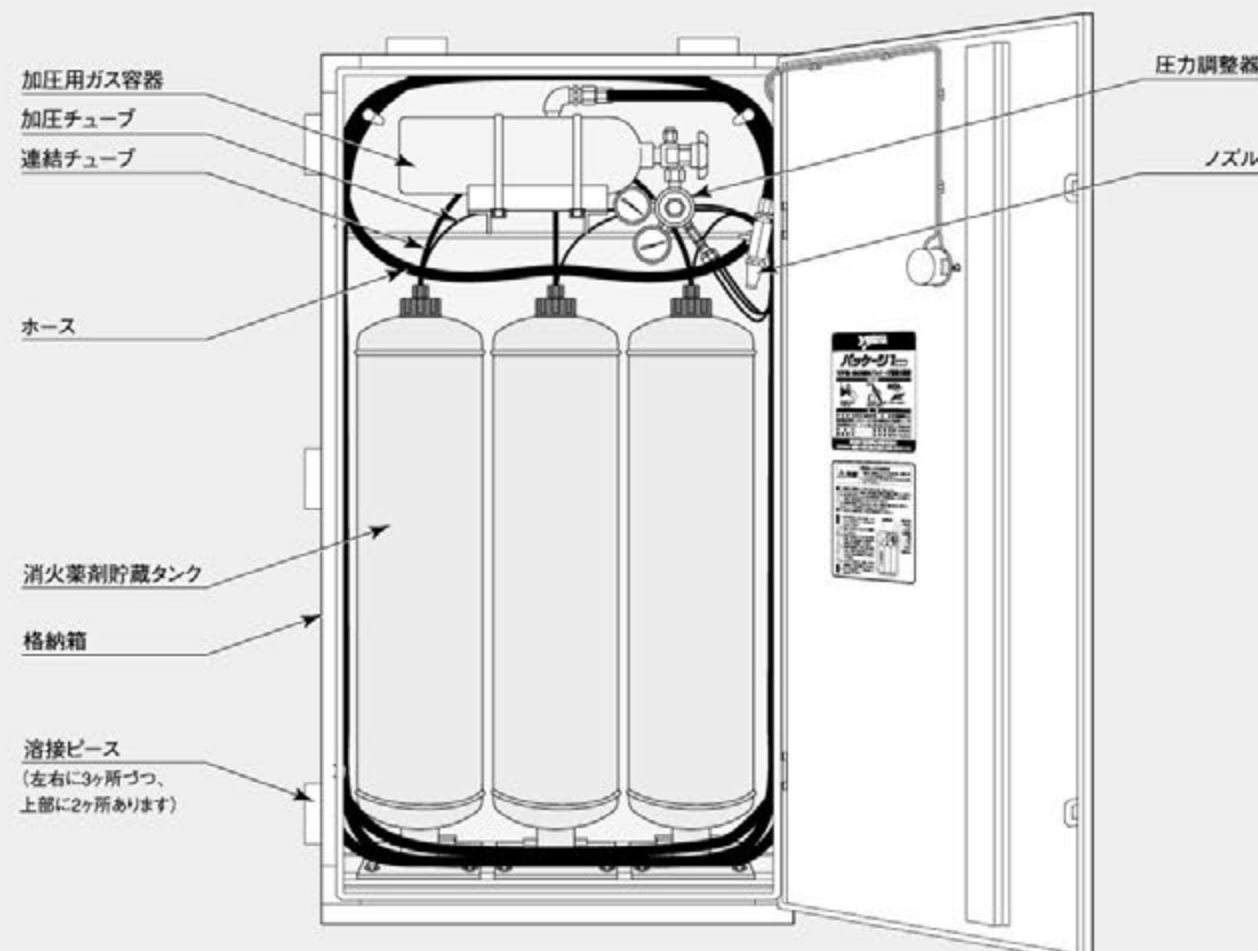


埋込型 格納箱取付要領書 パッケージ型消火設備(I型) YPS-80B型

作図中のネジに関しては表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。

据付完成図

※各部寸法等は、商用図・取扱説明書を参照してください。



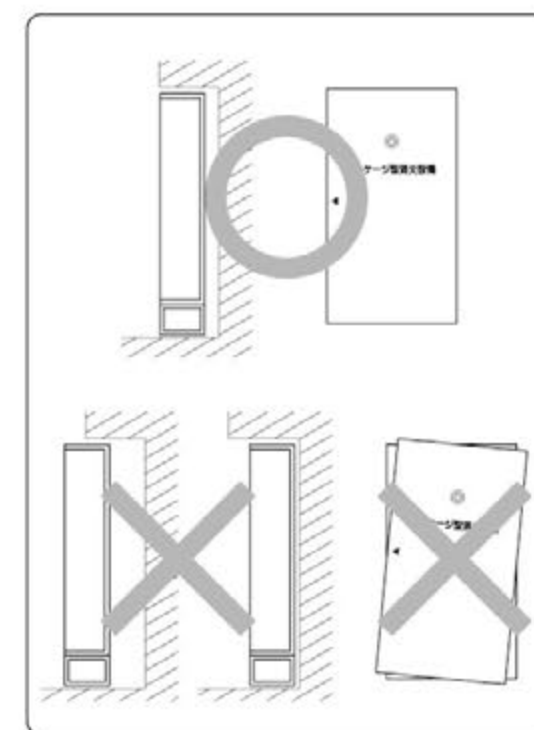
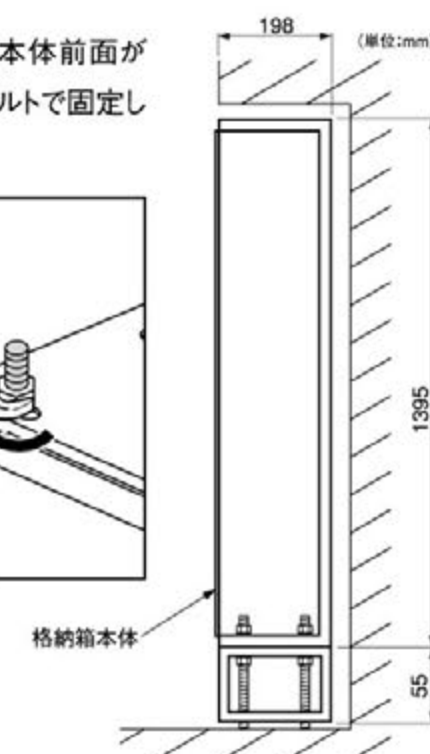
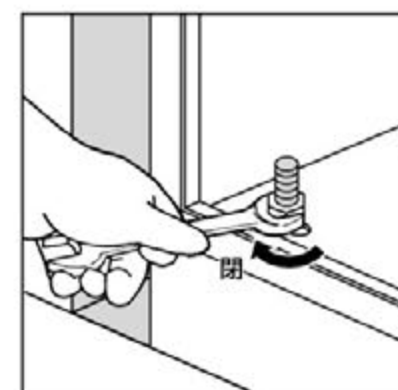
●梱包形態

「本体・扉十枠セット、容器3本、内部部品セット」の5点が4種類に梱包されています(容器は1本ずつ梱包されます)。
格納箱取り付け後にそれぞれを内部に取り付けてください。



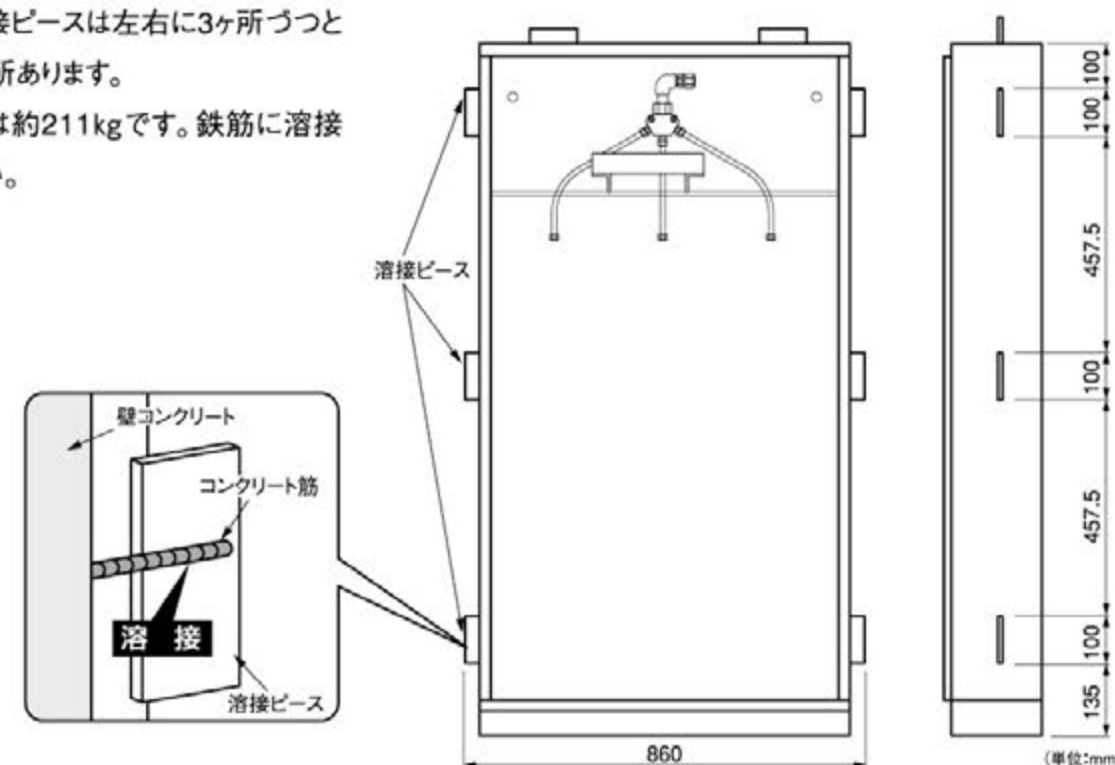
1 本体の取付

- 仕上りの壁面より本体前面が面一になるように、ボルトで固定してください。



- 鉄筋を利用して固定する場合。

- ・本体の溶接ピースは左右に3ヶ所ずつと上部に2ヶ所あります。
- ・設備質量は約211kgです。鉄筋に溶接してください。

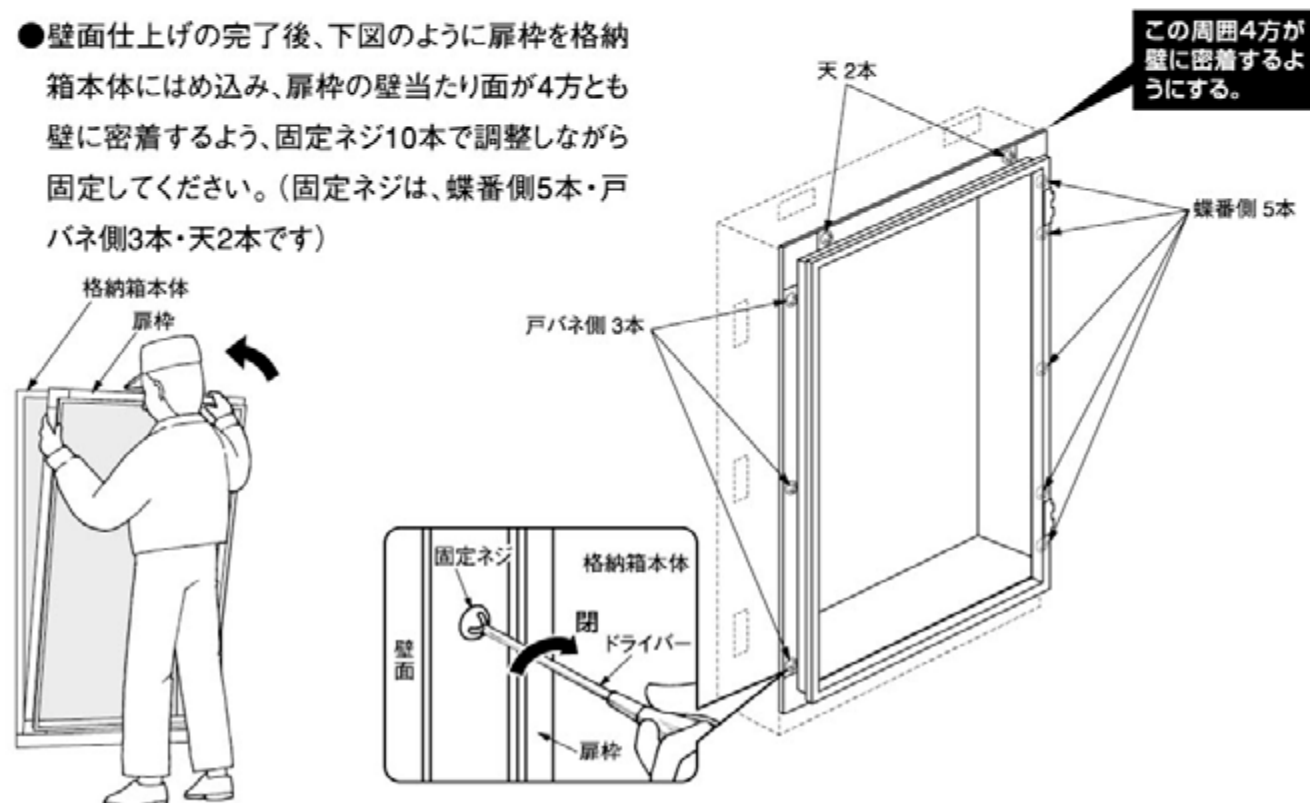


埋込型 格納箱取付要領書 パッケージ型消火設備(I型) YPS-80B型

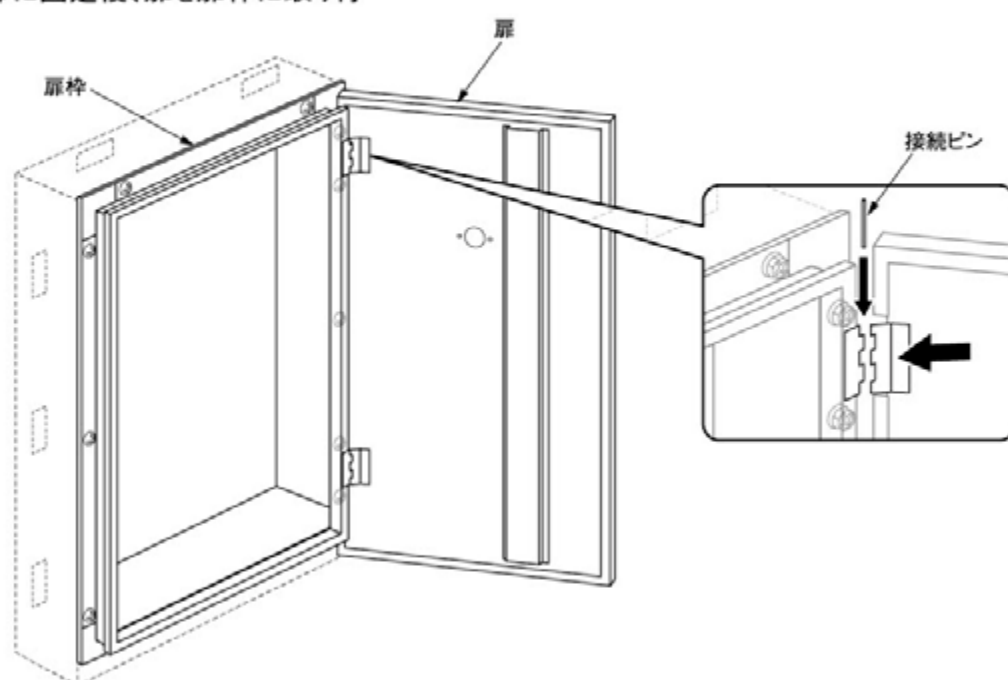
作図中のネジに関する表現で、「開」は外す、「閉」は締める事を示します。

2 扉枠・扉の固定

- 壁面仕上げの完了後、下図のように扉枠を格納箱本体にはめ込み、扉枠の壁当たり面が4方とも壁に密着するよう、固定ネジ10本で調整しながら固定してください。(固定ネジは、蝶番側5本・戸パネ側3本・天2本です)

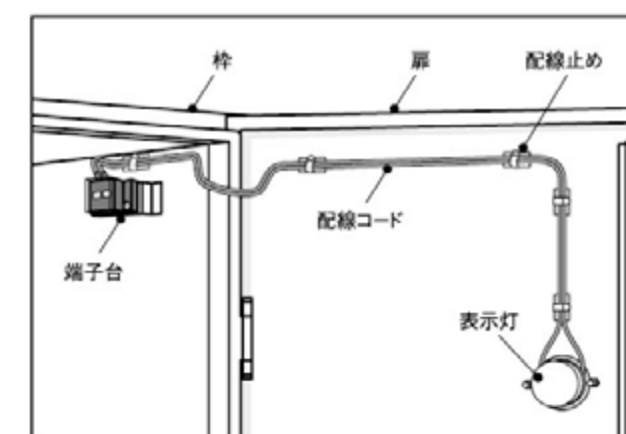
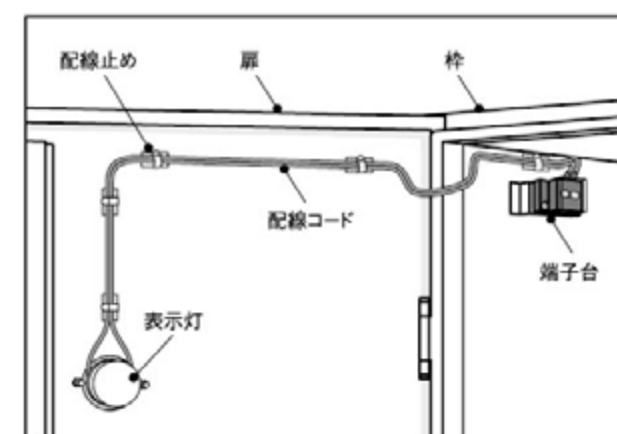
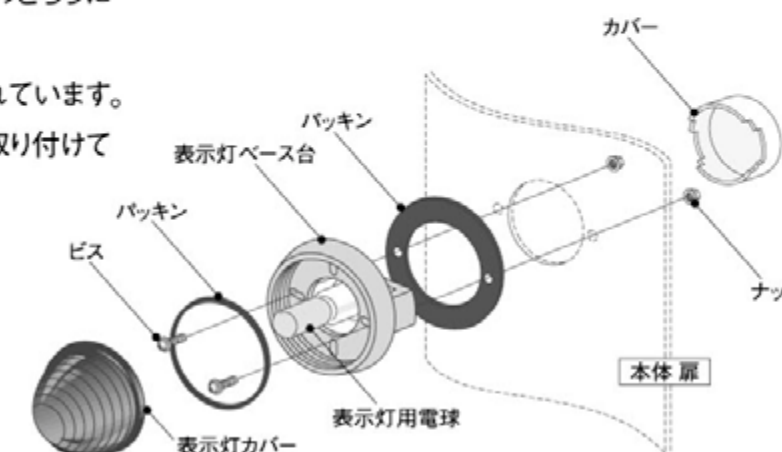


- 扉枠を格納箱本体に固定後、扉を扉枠に取り付けてください。



3 表示灯の取付

- 表示灯の配線は、右開き扉・左開き扉のどちらにも配線することが出来ます。
- 配線止めは、部品ケースに5個梱包されています。扉の開閉に支障がない適当な位置に取り付けてください。



4 内部の取付

※組立要領書を参照してください。

- 1・格納箱に消火薬剤貯蔵タンクを取り付ける。
- 2・ホースを取り付ける。
- 3・加圧用ガス容器を取り付ける。
- 4・加圧チューブを取り付ける。
- 5・連結チューブを取り付ける。
- 6・ホースをセットする。

